

第一薬科大学

「データサイエンス教育導入プログラム」に係る

自己点検・評価書

令和7年4月

教務委員会 データサイエンス教育小委員会

1. 点検・評価の実施について

第一薬科大学教務委員会データサイエンス教育小委員会では、「データサイエンス教育導入プログラム」について令和6年度の点検・評価を行った。

2. 点検・評価の対象科目について

本プログラムを構成する「情報処理演習Ⅰ」及び「情報処理演習Ⅱ」について主に点検・評価を行った。

3. 点検・評価の結果

項目	点検結果	評価
履修・単位修得状況	履修率は、前年度と同様、両科目共に100%を維持した。 ・情報処理演習Ⅰ 履修者数：159名、単位修得者数：150名、修得率：94.3% ・情報処理演習Ⅱ 履修者数：156名、単位修得者数：147名、修得率：94.2%	情報リテラシーの基礎を修得することを目的とした「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」の2科目について、履修率は前年度と同様にいずれも100%を維持しており、全学生が当該科目の受講を完了している点は高く評価できる。また、単位修得率についても、非常に高い水準を維持しており、学生の学習意欲や授業運営の適切さが伺える。なお、単位未修得者の多くは休学・退学等の事由によるものであり、必ずしも学修不振を原因とするものではない。したがって、現時点において特段の是正措置は必要とされないが、今後も学生の在

		籍状況を把握しつつ、必要に応じて柔軟な学修支援体制を整えていくことが望まれる。
教育効果	<p>学生からは、「Excel の使い方を基礎から学ぶことができて良かった」「グラフの作成や関数の使い方など、今後に役立つ内容だった」といった肯定的な意見が多く寄せられ、実務的スキルとしての有用性が高いことが示された。多くの学生が「丁寧な説明で理解しやすかった」「自分のペースで進められる構成が良かった」と述べており、教育方法の効果も確認された。一部の学生は、自らの課題解決に Excel を活用したことを挙げており、データに基づく思考力の育成にも一定の効果が認められた。</p>	<p>本プログラムに対して、学生からは「Excel の使い方を基礎から学ぶことができて良かった」「グラフの作成や関数の使い方など、今後に役立つ内容だった」といった肯定的な意見が多く寄せられており、実務的なスキルとしての有用性が高く評価されている。また、「丁寧な説明で理解しやすかった」「自分のペースで進められる構成が良かった」との声も多数見られ、学習者主体の教育方法が理解促進に寄与していることが示された。さらに、一部の学生は授業で得たスキルを用いて自らの課題解決に取り組んでおり、データに基づく思考力の育成にも一定の効果が認められる。以上のことから、本プログラムは実践的なスキルの習得とともに、データサイエンス的思考の基盤形成にも貢献していると評価できる。</p>
学生への授業評価アンケート	<p>多くの学生からは、PowerPoint や Excel の基本操作が理解できたことや、プレゼンテーションの練習が実践的で役立つという声が寄せられた。また、課題への丁寧なフィードバックや、グループ活動を</p>	<p>学生からのフィードバックは概ね好意的であり、特に情報活用力やプレゼンテーション能力の向上に有効な授業として評価されてい</p>

	<p>通じた協働学習の機会も好評であり、情報の整理や資料作成の力が身についたと実感する学生も見られた。一方で、授業の進行が速く感じられたという意見や、習熟度に応じた配慮を求める声もあった。また、グループワークにおけるメンバー構成の偏りや、理論面の補足を求める要望も一部に見受けられた。</p>	<p>る。ただし、習熟度の差への対応やグループワークの進行、理論的背景の補足については改善の余地がある。今後は、補助教材の活用や個別支援の充実を図るとともに、グループ活動の運営方法を見直し、理論と実技のバランスを意識した授業設計に取り組む予定である。</p>
<p>産業界との連携</p>	<p>本学は、2024年4月より「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」に連携校として加盟している。本コンソーシアムへの参加を通じて、産業界・他大学とのネットワークを活用しながら、数理・データサイエンス・AIに関する教育プログラムの高度化と実践的内容の充実を図っている。今後は、企業との連携による実践的な教育プログラムの共同開発や、インターンシップ、課題解決型学習（PBL）などの導入を視野に入れ、産業界との更なる協働体制の構築を推進していく予定である。</p>	<p>本学は、「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」への参画を通じて、産業界との連携基盤を形成しつつある点が評価される。ただし、現時点では主に連携校としての加盟にとどまっており、産業界との具体的な連携事例や成果は限定的である。今後、企業との共同プログラムやPBL型教育の導入、インターンシップの実施など、産業界との協働を具体的かつ継続的に進めることが期待される。また、その成果を教育改善や人材育成にどのように反映させるかが今後の重要な課題である。</p>